

令和 5 年 6 月 8 日現在

機関番号：16201

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2022

課題番号：20K19092

研究課題名（和文）スピリチュアルニーズ質問紙（独版）日本語版試案の妥当性の検証

研究課題名（英文）Reliability and Validity of the Japanese Version Spiritual Needs Questionnaire

研究代表者

上原 星奈（Uehara, Hoshina）

香川大学・医学部・助教

研究者番号：90855206

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 400,000円

研究成果の概要（和文）：SpNQ（独語版）を日本人に適応するために、Spiritual Needs Questionnaire（SpNQ）日本語版試案の妥当性を高めることを目的とした。SpNQ-20を日本語に標準化し、看護師を対象に調査を行い、探索的因子分析、確認的因子分析を行った。SpNQ日本語版は4因子16項目のモデルになった。このモデルは、日本人の内面に存在するスピリチュアルニーズの強度を測定する尺度と認められたため、信頼性が確認され、妥当性が高められたといえる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

バーンアウトや看取りのネガティブ経験が看護師の離職や潜在化を招いている。看護師の心理的支援の方策として、スピリチュアルニーズの観点からは検討されていない。本研究の成果として、SpNQ日本語版を作成でき、日本人のスピリチュアルニーズを把握できるようになった。看護師が自らのスピリチュアルニーズを認識することで、スピリチュアルニーズに対するセルフケアの機会を得ることになると考える。さらに、SpNQ日本語版は、16項目であり、患者のスピリチュアルニーズを迅速に把握できる手段といえる。今後は、より質の高い看護を患者に提供するために、看護活動におけるSpNQ日本語版の活用可能性を検討する必要がある。

研究成果の概要（英文）：In order to apply the SpNQ (German version) to the Japanese population, we aimed to increase the validity of the Japanese draft of the SpNQ (Spiritual Needs Questionnaire), standardizing the SpNQ-20 into Japanese, administering the questionnaire to nurses, and conducting exploratory factor analysis and confirmatory factor analysis were conducted. The Japanese version of the SpNQ is a four-factor, 16-item model. The reliability of this model was confirmed and its validity increased because it was accepted as a scale to measure the strength of the inner spiritual needs of Japanese people.

研究分野：臨床看護

キーワード：スピリチュアルニーズ スピリチュアルケア SpNQ

1. 研究開始当初の背景

1993年にWHOの書籍「がんの痛みからの解放とパリアティブ・ケア—がん患者の生命への良き支援のために—」のなかで、スピリチュアルケアについて述べられた¹⁾。霊的(spiritual)とは、人間として生きることに関連した経験の一側面であり、身体感覚的な現象を超越して得た体験を表す言葉である²⁾。生きている意味や目的についての関心や懸念と関わっていることが多いといわれている。

日本の病院では、霊的(spiritual)面のケアを担当する専門家が十分ではない。看護師は、患者を24時間態勢で看護するため、患者の霊的な問題に直面することが多い。新藤他³⁾の研究では、「生きる意味がない」と訴える終末期がん患者とコミュニケーションをとる345名の大学病院看護師の態度を調査した。看護師の約40%が「生きる意味がない」という患者のスピリチュアルな発言に対して「逃げ出したいような気持ちになる」、約60%の看護師は「無力感を抱く」と回答していた。このように感じている看護師は、死にゆく患者・家族との関わりに肯定的感情を抱いていなかった。また、大西⁴⁾の研究では、終末期の患者への看護を実践する上で、看護経験年数が5年未満の看護師の方が、5年以上の看護師より、感情面に問題を抱えていることが明らかになった。すなわち、若手看護師は、看取りの看護に何らかの不安を抱えていることが推測される。久保ら⁵⁾は、「看護師のストレスとバーンアウトの関係」を調査した。ストレス尺度36項目を医師に関する項目(6項目)、同僚と上司に関する項目(11項目)、患者に関わる項目(13項目)、その他(6項目)の4つに分類し、カテゴリー毎に因子分析を行った。患者に関わる項目の中で、「患者の死を看取ることがある」、「患者やその家族と、患者自身の死について話さなければならないことがある」、「親しくしていた患者が死ぬことがある」の3項目の因子負荷量が高かった。患者の死と向かい合うことが通常の看護業務とは異質の体験であり、異なる苦痛であることが示唆された。そして、患者の死を体験する機会が少ないほど、個人的達成感が低くなるという結果であった。この結果について、久保ら⁵⁾は、患者の退院と同様、患者の死も苦悩からの解放という意味では、両者は相反するものではないと説明した。したがって、看取りの看護が、患者や家族にとっても満足のいくものであれば、看護師にとって成功感や効力感へとつながり、そうでなければ、生と死の必然の中で生きざるを得ない仕事を続けていくことはできない⁵⁾という見解が述べられた。つまり、看護師が看取りの不全感を抱いた場合、バーンアウトとも関連していることが考えられる。看護師が患者にスピリチュアルケアを行うためには、自身のスピリチュアリティを良好に保つことが必要である。しかし、看護師の抱える困難感や無力感とスピリチュアルニーズの関連を調査した研究やバーンアウトとスピリチュアルニーズと関連を調査した研究はみられない。これらの関係を明らかにするためには、看護師自身のスピリチュアルニーズを把握する必要がある。

先行研究より日本では、がん患者や高齢者だけでなく、健常者も含めてスピリチュアルニーズを測定する尺度の開発はなされていないことが明らかになった。そのため、ドイツの精神科医 Büssing, A. et al⁶⁾の Spiritual Needs Questionnaire (独版)の日本語版作成を試みた。Spiritual Needs Questionnaire(独版)はがんや慢性疾患患者に用いることを目的として開発された。その後、スピリチュアルニーズはすべての人に生じる欲求であることから、慢性疾患患者や高齢者に加え、健康な成人に使用できるように改良された20項目の尺度である。

SpNQの日本語版を作成することは、看護師が、自らのスピリチュアルニーズを評価し、答えのない問いに対し、自ら考え、感じ、時には超越性の存在を通して、癒やしや人生の意味・目的を探し、新たな希望へと繋がる体験を得る機会になると考えられる。

【引用文献】

- 1) 世界保健機関編(1990)/武田文訳(1993):「がんの痛みからの解放とパリアティブ・ケア(第2版)」、金原出版、東京。
- 2) 公益社団法人日本WHO協会(2012):「健康の定義について」、<https://www.japan-who.or.jp/commodity/kenko.html>、(参照2018年11月27日)。
- 3) 新藤悦子、茶園美香、近藤咲子(2012):「生きる意味がない」と訴える終末期がん患者とコミュニケーションをとる大学病院看護師の態度、死の臨床、35(1)、91-100。
- 4) 大西奈保子(2003):「ターミナルケアに携わる看護師のバーンアウトの様相」、臨床死生学、8、36-43。
- 5) 久保真人、田尾雅夫(1994):「看護婦におけるバーンアウト-ストレスとバーンアウトとの関係-」、実験社会心理学研究、34(1)、33-43。doi:<https://doi.org/10.2130/jjesp.34.33> (参照2019年11月20日)
- 6) Büssing, A., Recchia, D. R., Koenig, H., et al. (2018): Factor Structure of the Spiritual Needs Questionnaire (SpNQ) in Persons with Chronic Diseases, Elderly and Healthy Individuals, *Religions*, 9(13), 1-11. doi:<https://dx.doi.org/10.3390/rel9010013>

2. 研究の目的

本研究の目的は、Spiritual Needs Questionnaire 日本語版試案の妥当性を高めることである。

3. 研究の方法

(1) 調査協力者

調査協力者は A 県内のがん診療連携拠点病院および緩和ケア病棟を有する病院に勤務する看護師とした。調査は、Microsoft Forms (Office 365, 東京) のアンケート機能を用いた無記名の Web 質問紙調査であった。

(2) 測定用具

測定用具は、Spiritual Needs Questionnaire 日本語版試案 20 項目 4 件法を用いた。

(3) 分析方法

分析方法は、基本属性および SpNQ 日本語暫定版 20 項目の度数分布の平均値と標準偏差を算出し、天井・床効果を確認した。次に、原版のモデルに則り、4 因子 20 項目で確認的因子分析を行い、適合度を算出した。適合度が不良である場合は、探索的因子分析を行い、解釈可能な因子構造を検討した。因子抽出は、最尤法プロマックス回転による因子分析を行った。さらに、因子負荷量が 0.4 以下のものは除外した。その後、抽出された因子構造を最尤推定法で確認的因子分析を行い、適合度を確認し、最終モデルを決定した。モデルの適合度指標は、 χ^2 、Goodness-of-Fit Index (GFI)、Adjusted Goodness-of-Fit Index (AGFI)、Comparative Fit Index (CFI)、Tucker-Lewis index (TLI)、Root-Mean-Square Error of Approximation (RMSEA) によって確認した。

信頼性の検討として、下位尺度の項目の I-T 相関を確認し、内的整合性の確認として、Cronbach の係数を算出した。

解析には IBM-SPSS Statistics Ver.28 for Windows (日本アイ・ビー・エム株式会社、東京) と Amos Ver.28 for Windows (日本アイ・ビー・エム株式会社、東京) を使用した。

4. 研究成果

(1) 調査対象者の概要

看護師の平均年齢は、 40.8 ± 10.7 歳であった。看護師経験年数の平均は 16.9 ± 10.7 年であった。また、緩和ケア病棟の勤務経験がある者は 11 名であった。

(2) 適合モデルの検出

SpNQ 日本語暫定版の 20 項目に天井・床効果がないことを確認し SpNQ-20(独版)のモデルを用いて、確認的因子分析を行った。結果は、推定値の計算は最小値に達した。モデルの識別条件は、 $\chi^2(166) = 526.988$ ($p=0.000$) であった。モデルの適合度は $CFI = 0.828$, $TLI = 0.800$, $GFI = 0.803$, $AGFI = 0.748$, $RMSEA = 0.101$ となり、適合度は望ましい値に至らなかった。

探索的に最尤法プロマックス回転を行った結果、4 因子が抽出された。因子負荷量が 0.4 以下の 4 項目を除外し、最終的に 16 項目を抽出した。SpNQ 日本語版のパターン行列は、SpNQ-20 とは異なり、第 1 因子が 7 項目、第 2 因子は 3 項目、第 3 因子 3 項目、第 4 因子 3 項目であった。

4 因子 16 項目の構造で確認的因子分析を行った結果は、図 1 に示した。モデルの識別条件は、 $\chi^2(92) = 196.44$ ($p=0.000$) であった。誤差共分散修正モデルの適合度は $GFI=0.926$, $AGFI=0.891$, $CFI=0.951$, $TLI=0.936$, $RMSEA=0.061$ と最も良好であった。このモデルはドイツ語版と同様の適合度が得られた。

各項目の I-T 相関は、項目 17 の相関係数が、 $r=0.45$ と低値ではあるものの、全項目で有意な正の項目であった ($p < 0.05$)。各因子の Cronbach の係数は、第 1 因子 $= 0.83$, 第 2 因子 $= 0.87$, 第 3 因子 $= 0.75$, 第 4 因子 $= 0.71$ であり、項目が削除された場合の Cronbach の係数において、0.10 以上の上昇する項目はなかった。

以上の結果から、4 因子 16 項目のモデル構造を Spiritual Needs Questionnaire 日本語版 (SpNQ-16JP) と称した。SpNQ-16JP は、日本人に対してスピリチュアルニーズの程度を測定する尺度と認められた。このスピリチュアルニーズの得点は、ドイツ語版を踏襲し、日本人の内面に存在するスピリチュアルニーズの強度を示すものである。したがって、本研究の結果から、信頼性が確認され、妥当性が高められたといえる。

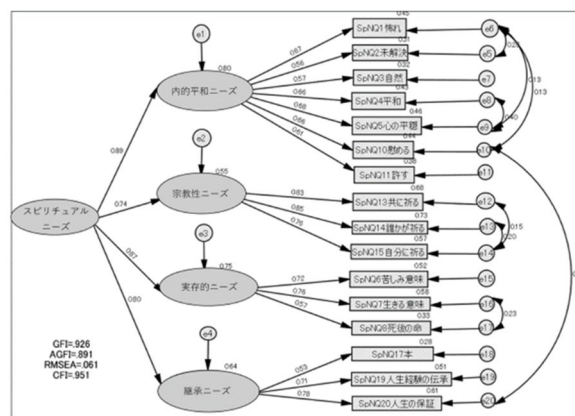


図 1. SpNQ 日本語版のパス図

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 上原星奈、清水裕子	4. 巻 21(2)
2. 論文標題 終末期患者の「希望」を支える看護の検討ー看護教育関連文献にみる「希望」記述の調査ー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ヒューマン・ケア研究	6. 最初と最後の頁 113-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上原星奈、清水裕子	4. 巻 25
2. 論文標題 英語の多義語"spirit"の認知意味論的分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 香川大学看護学雑誌	6. 最初と最後の頁 23-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 上原星奈、清水裕子
2. 発表標題 看護職におけるSpiritual Needs Questionnaire日本語版の構成概念妥当性の検討
3. 学会等名 日本リハビリテーション連携科学学会第24回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 上原星奈、清水裕子
2. 発表標題 Spiritual Needs Questionnaire(SpNQ)日本語試案の検討
3. 学会等名 日本ヒューマン・ケア心理学会第22回学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上原星奈
2. 発表標題 日本の看護学生のスピリチュルニーズの測定
3. 学会等名 日本ヒューマン・ケア心理学会第22回学術集会 学術委員会企画ラウンドテーブル ヒューマン・ケアとスピリチュアルケア
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------